

鼻翼拳上術には下記の内容が含まれます。

鼻翼縮小術

鼻翼縮小術とは、鼻翼（小鼻）をメスで切除し、小さく整える手術です。小鼻が膨らんでいたり横に広がっていて目立つ場合は、鼻翼縮小によって上品な印象に変えることができます。

鼻翼縮小術の持続性

鼻翼縮小術は半永久的に効果が持続する整形です。鼻の組織をメスで切除していく手術のため、術後に元に戻ってしまうことはありません。

鼻翼縮小術後の状態・ケアについて

- ・当日と翌日は長時間の入浴はなるべく避け、軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。
 - ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。
 - ・手術当日と翌日は患部がなるべく濡れないようにしてください。3日目以降は鼻周辺も優しく洗っていただいて大丈夫です。メイクは抜糸の翌日以降可能ですが、最初のうちは周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
 - ・強い腫れは、1～2週間程度で引いていきます。その後も時間の経過と共に腫れは引いていき、完全に腫れが引き完成するまで厳密には数ヶ月ほどかかります。
 - ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
 - ・術後は、しばらくの間鼻に強い力が加わらないようにしてください。とくに術後1週間程は手術部位や傷口周辺が不安定な時期のため、なるべく鼻に負担がかからないよう十分に注意して生活してください。具体的には、うつ伏せで寝る、鼻を押す、ぶつける、鼻をかむ、鼻先や傷口周辺を触るといった行為はできるだけ行わないよう充分ご注意ください。
 - ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
 - ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。
- ※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

鼻翼縮小術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

鼻の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね2週間ほどで腫れは引いていきます。

【しびれ】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後痺れが残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の鼻の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

鼻翼縮小術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、鼻に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会

THE ONE.